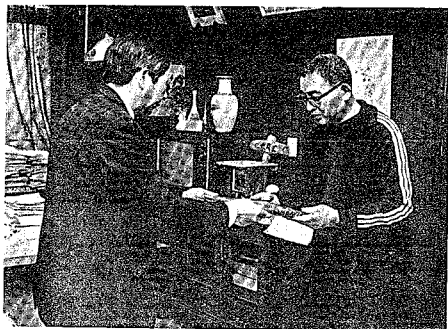


献血功労者の紹介



ル出血したら危なかったのではないのでしょうか。手術後、見舞いに来てくれた友人が一リットル程出血したと聞いて言うことには、「もったいない、献血五回分じやない。」確かにそうも言えるかもしれない。そうすると、私は六人乃至七人の方の御恩を受けたという事になるわけです。

輸血の血液は献血に頼っているのだそうですが、これは非常に多くの人達の協力を要することだと思えます。このことは、今までに幾度となく言われてきたし、新聞、テレビなどでも「愛の献血に協力しましょう。」などと報道されています。しかし、全部の人達がそれを自分と結びつけて受けとめているのではない

後に金文字で献血手帳と打ってあるカードを受け取ったときは、大袈裟のようですが何か感謝を受けたような気がしました。

輸血をした為に六か月間も献血できなくなった私ですが、輸血をしていっそう献血の貴重さを感じています。いつ、自分が輸血の必要な状態になるかわかりません。そういう時の為に備え、健康なときに献血をしておかなければいけないのです。また、血圧検査など、各種の検査をして下さっている、これらは健康管理にも役立つのです。献血はまだまだ誤解されている面も多々ありますが、一人一人の義務のように考えてゆくべきではないでしょうか。

血液の生化学的検査

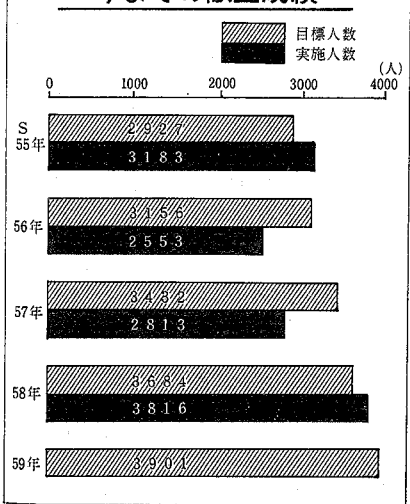
お互いの助け合いの理解の上に立つて、献血にご協力をお願いできましてありがとうございます。

献血を実施することによって血液の内容の六項目について生化学的検査のサービスマも同時に受けることができ、小さな人間ドックのように自分の体を点検することが出来ます。

検査項目の意義について

血清トランスアミナーゼ	アルカリフォスファターゼ	総蛋白	アルブミン対グロブリン比	尿酸	コレステロール
肝臓に多く含まれ、その他の臓器にもある程度含まれる酵素です。これらの臓器が悪くなると、細胞からの酵素が出ていくため、血液中の量がふえることがあります。	腸、腎臓、脾臓などに分布している酵素で、特に骨が新生されるころでは、その量が増し、妊娠のときにも多くなります。また、この酵素は肝臓から胆汁の中に排出されますので、肝臓や胆道が悪くなったときも血液中の量がふえることがあります。	健康な人の血清蛋白量は、ほぼ一定ですが、病気で栄養が悪くなると少なくなります。また、血清蛋白は大きくアルブミン(A)とグロブリン(G)に分けられ、その割合は健康な人ではある範囲に保たれています。病気がよつてはその割合が変つてきています。	蛋白質は、栄養素としてからだのなかで利用されたあと、尿酸になつて腎臓から尿中に排出されます。そこで、尿酸の働きが悪いと尿酸(尿酸素)が血液中にふえます。また、からだのなかで蛋白質が多くこわれるようなときにもその量がふえます。	血液脂肪の一つで、脂肪の多い食事を長時間続けている人や肝臓・腎臓・脂質・胆道などの病気のときなどにも、血液中のコレステロールの量がふえることがあります。また血液中のコレステロールが多くなると、血管に変化がおこり、これが原因の一つとなつて血管系に関連した病気がおこることもあります。	

今までの献血成績



日本赤十字社から献血有功章並びに表札が授与された献血回数30回以上の山口忠郎さん(南町)他25人の方々と献血回数50回以上の伊藤藤平さん(子成場)他2人の方々とご紹介申し上げますとともに今後新津市の献血事業にご協力下さるようお願い申し上げます。

○30回以上の方
斎藤トミ(滝谷町) 夏井清次(車場) 熊倉一(滝谷町) 間一彰(小口) 島倉昌司(中野3) 五十嵐春江(出戸) 五十嵐美津(北上1) 小田博明(浦野) 小出正平(本町3) 馬場龍二(草水町1) 大橋中人(荻島3) 寺尾一郎(浦野)

浦野野、清水 隆(吉岡町) 田中嘉明(新町1) 佐々木和雄(本町3) 石倉賢司(結) 高山美津夫(下野) 高田孝男(四野) 斎藤 修(柄目木) 柴田憲一(本町3) 木村正二(滝谷町) 上村浩之(本町2) 湯田孝男(荒路津) 伊藤栄治(市職員) 帆刈 隆(金沢)。

○50回以上の方
昆 正登(本町3) 徳永章司(古田)。

●県立新津工業高校 厚生大臣賞受賞